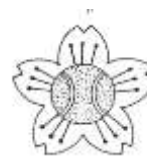


令和6年7月19日発行

横浜市立六浦小学校学校だより



むつうら



本校教育目標「つながるなかま まち いきいき 六浦っ子」

体験学習や地域の伝統行事で育つ子ども

校長 内野 泰久

梅雨明け前から、記録的ともいえる猛暑が到来し、外遊びの制限など少なからず学校の活動にも影響を及ぼしている7月です。いよいよ20日から土日を入れて38日間の夏休みに入ります。この時期にしかできない体験をして、夏休み明けには一段と成長した姿をみせてくれることを期待しています。

この3か月の間、六浦小学校の子どもたちは、生活科や総合的な学習の時間での自然との触れ合いを通して、心も身体も成長してきました。4組は畑で収穫したたくさんの野菜の中から玉葱は、給食の食材として利用し全校児童が食べました。1年生は一人ひとりが大切に育てているアサガオがバラエティーに富んだ色の花を咲かせました。2年生もお世話してきた夏野菜を楽しみながら収穫し、うれしそうに見せてくれます。3年生はカイコの飼育するために、桑の葉探しに一生懸命です。4年生は野島宿泊体験学習を通して海の生き物に触れ合い、興味をもつことができました。5年生は田んぼにイネを植えて米作りにチャレンジ。侍従川の自然にも興味を広げています。6年生は、全校を巻き込んで秋田県大館市立釈迦内小学校からいただいたヒマワリの種を植える活動をしました。

7月7日より執り行われていた瀬戸神社の天王祭が、13日、14日にクライマックスを迎えました。13日の宵宮では、夕刻より町内会の伝統ある屋台、神輿が入りました。花鳥風月の森は、提灯の明かりで鮮やかにライトアップされた屋台の上で奏でられる子どもたちのお囃子の音色に日が暮れるまでつつまれました。14日は、地域を勇壮に巡回した屋台が威勢よくお昼前に校庭に入り、神社の神様をお迎えした後、参加された地域の方々や中学生に体育館で一息ついていただきました。町内会の皆様はじめ木遣保存会や神輿會の方々のご尽力もあり大いに盛り上がりました。長い歴史のある地域の行事の、子ども囃子に六浦小の子どもたちが多く参加していることが何より嬉しいことでした。ある町内会では、小学生のお囃子への参加が3人から10人に増えたご報告を受けました。小学生の時期から行事に参加し、地域の方々との顔の見える関係を築いていき、将来の地域の担い手を育てていく。六浦小の教育の一つの大きな柱の前進を感じました。生活、総合の活動や地域行事への参加は、学校だけでなく地域の方々や外部の講師の方々のお力もお借りしています。お忙しい中、時間を割いて指導に当たっていただき本当に感謝の気持ちで一杯です。繰り返しになりますが、自然と関わり、地域の人と関わるそのことが六浦小学校の子どもたちの成長につながっています。